

# 景況レポート

(11月分・情報連絡員80名)

## 需要の低迷により景況感が悪化

### 【概況(全体)】

前年同月との比較による11月分の県内景況は、前年同月と比較して景況が「好転」したとする向きが16.3% (前回調査20.0%)、「悪化」が30.0% (同27.5%) で、業界全体のDI値は-13.7となり、前月調査と比較して6.2ポイント下回った。

なお、製造業全体のDI値は3.1、非製造業全体のDI値は-25.0となり、ともに前月を下回っており、景況感は改善の兆しがあった前月から一転して、悪化に転じた。

また、全国や北海道・東北ブロックと比較すると、本県の製造業のDI値は、前月に引き続き大幅に上回っており好調を維持している。一方、非製造業は、需要の低迷等により景況感が下方に転じた業界が多く見られ、依然として低迷している。

### 【業種別の状況】

前月との比較では、食料品をはじめ印刷や卸売業、商店街、建設業、運輸業で景況感が下方に転じた。

情報連絡員からの報告では、繊維製品やトラック輸送をはじめ、天候や季節的な要因が受注や売上に影響した業界が散見された。

なお、前月に引き続き、繊維製品や鉄鋼・金属、トラック運輸などが好調に推移したが、食料品や建設業では、一部好調な業種を除き、需要の低迷により悪化割合が強まった。

また、依然として公共工事の発注や住宅着工が低迷しているほか、自動車をはじめ消費税増税による需要の低迷が長引いている業界もあり、加えて人材確保が深刻な課題となっていることから、今後の先行きについては引き続き予断を許さない状況にある。

### ＜全国の景況DIとの比較＞

	秋田県	全国	東北・北海道
全体	-13.7	-22.4	-20.1
製造業	3.1	-21.4	-16.3
非製造業	-25.0	-23.2	-22.3

### ＜景況天気図＞

項目	業界の景況	売上高	販売価格	取引条件	資金繰り	雇用人員
製造業						
非製造業						

【凡例】

快晴 30以上	晴れ 10以上 30未満	曇り △10以上 △30未満	雨 △30以上 △10未満	雷雨 △30以上 △10未満

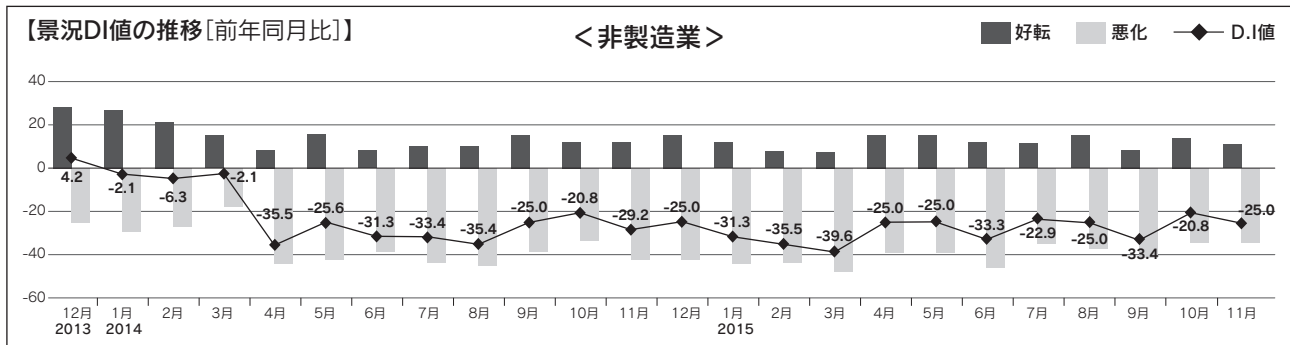
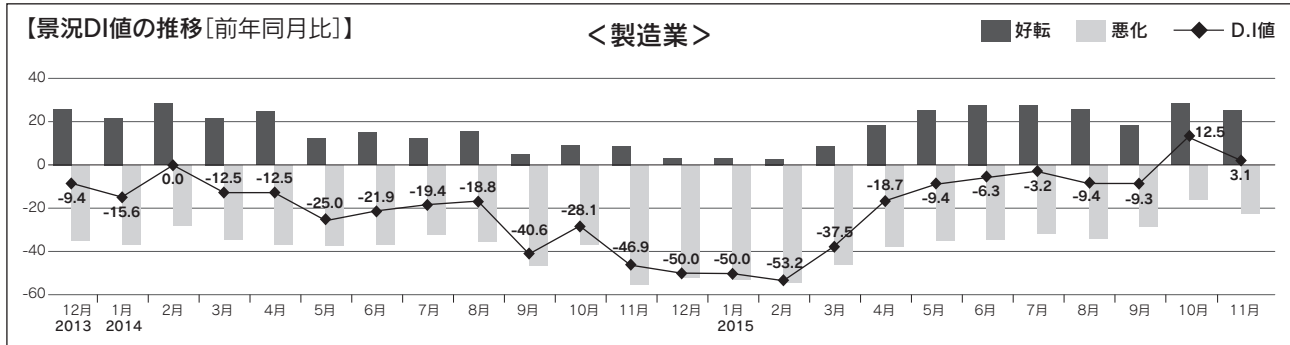
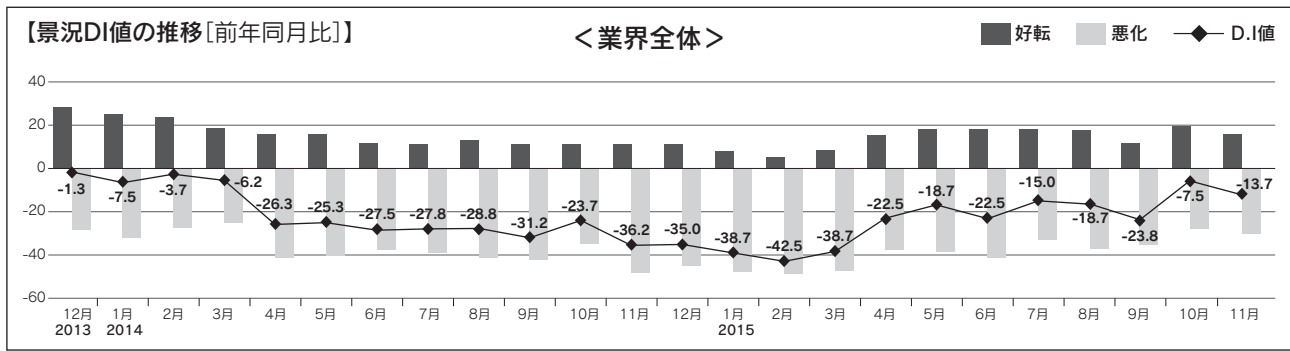
【天気図の見方】  
前年同月比のDI値をもとに作成しています。

※DI値とは、Diffusion Index(ディフュージョン・インデックス)の略で、増加(好転)したとする企業割合から、減少(悪化)したとする企業割合を差し引いた値です。

### 【業界の声】 ～製造業～

(回答数：32名 回答率：100%)

食料品 (豆腐油揚)	季節柄、豆腐の需要は増加傾向にあるが、県外大手業者が次々と新製品を投入してきたこと等により、当組合の売上は前年同月を下回った。
食料品 (精穀・製粉)	需要の停滞により生産量が減少していることに加え、依然として原材料の高騰等生産コストが増加しており、厳しい状況が続いている。
繊維工業 (繊維製品)	受注量や単価が上昇し、日本製の需要増加が感じられるが、納期が前倒傾向となっており、発注時期の重複等による受注機会の喪失や経費の増加が懸念される。また、暖冬の影響で店頭での売上が伸び悩んでいることも懸念材料である。(中央地区)
木材・木製品 (一般製材)	荷動きは多少活発になってきたが、まだ採算ベースには乗っていない。(中央地区)
印刷	マイナンバーの管理体制整備のための経費負担や、諸材料の値上がりに伴う価格転嫁が困難なこと等により、今後の収益の悪化が懸念される。(中央地区)
窯業・土石製品 (生コンクリート)	11月の出荷数量は前年同月比78.5%、4月～11月の累計では前年比84.9%と非常に厳しい状況にある。
鉄鋼・金属 (鉄鋼)	各社とも当面の仕事を確保できているが、受注残についてはバラツキがある。
一般機器 (金属加工)	原材料は安値傾向となっているが、売上は前年同月を下回っており、収益面は厳しい状況にある。特に、部品加工については依然として短納期で利幅の小さいものが多い状況となっている。
その他の製造業 (曲げわっぱ)	最近では多方面から取材や注文が入り繁忙となっているため、多少だが景気の回復を感じる。



【業界の声】 ~非製造業~

(回答数：回答数：48名 回答率：100%)

卸売業 (再生資源)	鉄の買取価格の低下が続き、鉄をはじめ非鉄金属や銅、アルミも底値となる等、景況は前年同月比で悪化している。
卸売業 (古紙)	古紙の買取価格に変動はなかったが、全体の回収量は前年同月比11.3%の減少となっており、依然として雑誌の落ち込みが目立った。
小売業 (共同店舗)	11月は売上、客数、客単価とも前年同月を割り込んだ。特に、鮮魚や一般食品で売上の落ち込みが大きかった一方、総菜は前年同月比プラスで推移した。(能代市)
小売業 (みやげ品)	11月の土日は天候に恵まれなかったため、一般の来館者数が大きく落ち込み、売上は前年同月比85%にとどまった。(仙北市)
商店街	降雪が遅れたため、衣料品を中心に季節商品の動きが鈍くなっている。また、暖冬予想もあることから、12月以降の販促について対策が必要である。(大館市)
サービス (旅行)	国内旅行の売上は、前年同月比100%と横這いで推移したが、海外旅行については、パリのテロ事件の影響により86.7%と落ち込んでおり、年末年始の海外旅行者の減少が危惧される。
建設業 (管工事)	今年度は、市の発注工事が多く、年度末までの工事を確保できている企業が多いが、一部で人手不足の状況が続いている。(県北地区)
建設業 (電気工事)	公共工事、民間工事ともに低調に推移しており、新築住宅工事等も減少傾向にある。一方で、後継者育成や人材不足が深刻な課題となっている。(県南地区)
運輸業 (トラック)	11月は、売上、収益とも前年並みで推移した。これから年末に向けて輸送需要が増加する見込みであり、燃料価格の安値安定が望まれる。(県南地区)
その他の非製造業 (砂利採取)	降雪を控え例年繁忙となる時期だが、生コン用の骨材、路盤材用の骨材ともに荷動きは前年よりも鈍い状況となっている。(県南地区)